

2021年度自己点検・自己評価の実施について

学校法人東大阪准看護学院

当学院では学校教育法第42条に基づき、以下に掲げる基本方針に従い学校評価の取り組みを計画的に進めてまいりますが、初年度にあたる本年度はまず自己評価を行い、現状把握よりスタートする予定です。

今後は文部科学省が公表している「学校評価ガイドライン」に基づき①学校関係者評価・第三者評価の実施に向けて学院内の体制構築、②学校評価を組織的な対応として明確化させるため学校評価の実施に関する規程の整備、③教育目標・重点目標達成のために学校運営・教育活動の評価や情報提供を効果的に進め、改善する方法としてPDCAサイクルを活用の3点につき取り組みを進めてまいります。

○基本方針

1. 学校の教育目標・計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたのかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価の結果を公表する。
2. 自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、准看護師学科に関連する団体、卒業生等学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するために、関係医療機関、卒業生等学校関係者から選任した委員による「学校関係者評価委員会」を今後設置し、「学校関係者評価」を実施する。
当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。
評価結果と改善への取り組みをホームページに掲載し公表する。

○自己評価の実施について

- ・2021年度はまず現状把握のため、学生(2年生)及び教職員を対象にアンケート形式で調査を実施する。
- ・アンケート内容は大項目別にⅠ 教育理念・目的・育成人材像2問、Ⅱ 学校運営7問、Ⅲ 教育活動35問、Ⅳ 学修成果4問、Ⅴ 学生支援16問、Ⅵ 教育環境15問、Ⅶ 学生の募集と受入7問、Ⅷ 財務6問、Ⅸ 法令等の遵守13問を設け学生・教職員各々に該当する設問をこの中から選択し、
- ・アンケートは設問ごとに4段階(4:非常にそう思う、3:そう思う、2:ややそう思わない、1:そう思わない)評価で行い、項目別に平均値を集計するとともに、強み弱みの分析及び課題抽出につなげる。
- ・このアンケートについては評価結果に基づき適宜設問項目の見直しを行う。

また今年度学生の対象は2年生としているが、今後は1年生にも拡大し、年次別傾向などの分析も行っていく予定である。

○項目ごとの評価結果(平均値)及びコメント

◎…学生・教職員共通設問	☆…教職員のみ対象の設問
I 教育理念・目的・育成人材像	2.60
<p>●これまで教育理念・教育目的・教育目標は明文化され、教育をするにあたっての基本理念として位置づけられていた。しかし、時代の変化に対応すべく修正などは行っておらず、また授業内容との整合性の確認も満足に行われていない状態になっていた。</p> <p>今般のカリキュラム改正により一旦授業内容とすり合わせができた状態になっているが、今後は定期的に見直すことができるようルーチンに組み込む必要性がある。</p>	
【1-1】 理念・目的・育成人材像	☆2.60
<p>☆教育理念・教育目的・教育目標は一貫性がある</p> <p>☆定期的に教育理念・教育目的・教育目標の点検・評価を行い、時代の要請・変化にあったものに修正されている</p> <p>※2022年度のカリキュラム改正に合わせ教育理念・教育目的・教育目標の見直しを行った。ただ、アンケート実施時点ではまだ教職員全体で情報の共有化はされておらず、今後は定期的にブラッシュアップする必要がある。</p>	
II 学校運営	2.92
<p>●制度・システムなどは都度改修しており、最新・最適の状態を保つことはできているが、I「教育理念・目的・育成人材像」と同じくビジョンの設定やそこで出された目標の共有化などのアクションが弱いことが再確認された。</p> <p>これまでは「要員不足に起因して時間が取れない」ということで意思統一の時間が取れていない状態であったが、年初・中間期にはミーティングを実施していく必要がある。</p>	
【2-2】 運営方針	☆2.50
<p>☆学校は、設置者の意思・指針を明確にしている</p> <p>☆学校のビジョン及び実現のための目標を策定し、教職員の共通理解を図っている</p> <p>※これまでも理事長による教職員との面談を通じ、学校の運営に関する考え方の説明や、ヒアリングなど機会あるごとに実施しているが、明文化されたビジョン・目標を示すことができていない。</p> <p>まず、教育について年度目標の策定と進捗管理をすることでスタートをさせていきたい。</p>	
【2-4】 運営組織	☆3.11

<p>☆理事会や評議員会は寄付行為に基づき適切に開催されている</p> <p>☆理事会や評議員会の開催後には議事録が作成されている</p> <p>※「寄付行為」に基づき、適切に運営し、決議録の作成・保管もできている。</p>	
<p>【2-5】 人事・給与制度</p>	<p>☆3. 20</p>
<p>☆人事制度や賃金制度など規則・規程は整備されている。</p> <p>☆変形労働時間制・36協定は労働基準監督署に滞りなく届出されている</p> <p>※関連する規則・規程などは整備されており、教職員に配布している。</p> <p>また、労働基準監督署にも関連する届け出は行っている。</p>	
<p>【2-7】 情報システム</p>	<p>☆2. 93</p>
<p>☆成績管理システムや、給与管理システム、スピードック等を導入し、業務の効率化を進めている</p> <p>※これまで手計算・手作業で行っていた給与管理や財務処理等の作業については、システムを構築しデータベース化を図ってきた。汎用性のあるソフトについては教職員全員が等しく操作できる様にマニュアルの整備や操作方法の講習などを行っていく。</p>	
<p>Ⅲ 教育活動</p>	<p>2. 89</p>
<p>●組織面で教員の学ぶ機会の確保が最優先事項である。ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響により、研修機会が失われていることも事実である。</p> <p>しかし一方で実習病院の対応などで要員不足感が顕在化しており、学習機会がなかなか確保できないこともある。</p> <p>今後は研修情報の収集と告知、財政的な裏付けを行い、受講促進を図らなければならない。合わせて受講した内容のフィードバックにより情報の共有化も図り、教育の質を高めていく必要がある。</p> <p>また、学生への指導・接し方についてもハラスメントと受け取られないような統一した指導方法につき論議しなくてはならない。</p>	
<p>【3-8】 目標の設定</p>	<p>◎2. 97</p>
<p>☆卒業時において持つべき准看護師の資質を、教育目標に明示されている</p> <p>◎卒業時に到達すべき状況を分析し、指導に活かしている</p> <p>◎教育目標の内容は卒業時の看護実践力として評価・検討をしている</p> <p>◎学年目標を意識して教育を受けている</p> <p>※学生に対して問うた設問については全て3ポイント以上の結果であり、一定の評価となっている。一方で学年目標の設定について教職員の集計結果は2.5ポイントを下回っており、学年ごとの到達すべき目標設定については曖昧である様子が伺える。</p> <p>今後は学年ごとに到達すべき目標や指導方針の確認、教務内の情報共有化と進捗管理を行う必要性が高い。</p>	
<p>【3-9】 教育方法・評価等</p>	<p>◎2. 98</p>

- ◎教え方に工夫をしている教員や外部講師が多い
- ◎学生便覧や学習の手引きは学習の参考になる
- ◎教職員は学生をよく聞いている
- ◎教職員はどの学生に対しても平等である
- ◎教職員は学生のプライバシーの保護に努めている
- ◎学生の単位取得に向けた支援を実施している
- ◎段階的にわかりやすいカリキュラムになっている
- ◎専門性のある授業内容である
- ◎教員はよく勉強し学生に伝えている
- ◎わかりやすく教えるために日々努力している教員が多い
- ◎教員の実習指導に満足している

※学生からは教員の教え方に対する満足度は比較的高い傾向にあるものの、カリキュラムのわかりやすさや教員の实習指導については不満が見えてきた。また、「教職員はどの学生に対しても平等か」の問いについて学生の評価は 2.41 と、この中項目の中では最も低く、教職員の平均値より 0.52 ポイント低い結果とった。また、教職員も「学生の話をお聞いている」「どの学生にも平等」「教え方に工夫をおしている」等の項目で評価が低く、個々の学生に対する指導方法や接し方を見直す必要がある。

【3-10】 成績評価・単位認定等

◎ 2. 8 8

- ◎各授業の単位認定の判定は納得できる
- ◎学生に修了認定のための評価基準とその方法を公表しており、かつ評価について公平性・妥当性が保たれている

※いずれの設問も教職員の評価は学生を下回っており、教育をする側の厳しい判断が表れている。特に評価基準と公平性については【3-8】【3-9】の内容と総合して評価基準の再確認と現場教育における公平性の確保につき改めて論議・改善することが必要である。

【3-11】 資格・免許の取得の指導体制

◎ 3. 0 5

- ◎資格試験に向けて学生に合った指導・援助を行っている
- ◎資格試験の合格率が 100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいる

※准看護師資格試験全員合格を目指しこれまでも様々な取り組みを行ってきたところであり、この取り組みに傾注してきた。

ただし、現状に満足することなく生徒の学習進捗に合わせた個別指導など更にレベルを上げた取り組みなどの方策も検討する余地がある。

【3-12】 教員・教員組織

☆ 2. 2 5

- ☆教員は計画的に研究調査活動に取り組んでいる
- ☆教員は研修会参加、新智識・技術の習得に務めている
- ☆教員は計画的に臨床看護研修に参加している
- ☆教職員会議などを通じて教職員は学校の経営管理に参画している

- ☆各会議は学校運営に関する論議の場として機能している
 - ☆学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を実施している
 - ☆学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みができています
 - ☆教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援している
 - ☆教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えている
 - ☆専門領域認定が受けられるような支援体制が整っている
 - ☆授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようになっている
 - ◎講義概要は学生が授業内容を理解しやすく、授業と一致している。
 - ☆効果的な授業運営を図る為、適切な時間割を調整している。
 - ◎学生にあわせた授業内容や指導技術の工夫をしている。
 - ☆授業評価を実施し、授業内容の改善に活用している。
- ※この中項目は非常に厳しい評価となった。15問中平均評価が1ポイント台の設問が5問、2～2.5ポイント台の設問が6問存在する。
- 臨地実習先が多岐にわたっており教員が分散して現場指導しなければならない状況の中、教員が集って意思統一や研修を行う機会が全くできない状態であり、またここ数年新型コロナウイルス感染症が拡大していたため外部研修に参加できる機会がほぼなく、支援体制が全く機能できない状況にある。

IV 学修成果

2. 85

- 資格試験全員合格は至上命題であり、様々な対策は取っているが、学生全体に対する指導となっており、個々の強み・弱みの分析による指導にまで至っていない。また就職についても積極的なフォローを行っておらず、「学生の自主的な」行動にゆだねている状態であった。
- これらを含め学生とのかかわりを今以上に積極的に行うことが必要である。

【4-14】 資格・免許の取得率

◎2. 98

- ◎資格取得率に対する目標は明確に設定されている
 - ◎模擬試験によって、全国平均と客観的な比較を行い、強み弱みの分析を行った上で対策を立てている
- ※模擬試験は1年次より複数回実施し結果は個別にフィードバックの上、回答の解説はしているが客観的な比較による指導などまでできていない。学年の全体像把握による重点指導と個別課題克服のための指導など試験結果をツールとして活用する方法を模索する必要がある。

【4-15】 卒業生の社会的評価

◎2. 90

- ◎質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている
- ※医療現場で勤務するにあたり学生本人が「苦労」しないよう知識・技術を教えてはいるが、さらに実践的な内容があれば積極的に情報提供する必要が認められる。

【4-13】 就職率

◎2. 52

◎卒業生の大阪府内就職率を高めるよう努力している

V 学生支援

2. 79

- IV「学修成果」におけるコメントと同様に、学生の情報収集と教職員内での学生情報の共有化により各学年担当と担任が中心となり適切なアプローチができるような体制づくりが急務である。
合わせて進学・就職についても情報収集をこれまで以上に行い、学生に積極的に情報発信してフォローすることが求められる。

【5-16】 就職等進路

◎2. 69

- ◎就職・進学に対して指導・支援している
 - ◎学校は就職や進学についての情報を知らせている
 - ◎資格試験に対する情報を知らせている
 - ◎資格試験対策が計画的に実施されている
 - ◎進学、就職等の進路に関して学生の相談に十分応じている
- ※【4-13】 「就職率」とあわせ、これまで積極的に就職支援は行っておらず、会社案内を閲覧できる程度で、学生が主体的に就職活動を行っている状況。進学に関しても同様。
就職・進学の相談に来る学生に対しては個別に対応はしているが、組織的な取り組みには至っていない。
一方資格試験対策について2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で最終確認講義ができない状態であったが、計画的には行っている。

【5-17】 中途退学への対応

◎2. 85

- ◎就学困難な学生に対する相談の支援をしている
 - ◎成績不良の学生に対しては面談等の適切な指導を行っている
 - ☆中途退学の要因・傾向、学年別の退学者数等を把握している
- ※中途退学の原因は主として学業不振、家庭環境による。特に学業不振の学生には複数回面談を実施し原因の解決などにつき指導を行っているが、学年により退学率が10%を上回ってしまう場合もある。
また、退学率の減少が収支状況の改善にも寄与することから、予兆を感じた段階でこまめな指導をすることで退学率の減少に取り組む必要がある。

【5-18】 学生相談

◎2. 93

- ◎学生の学校生活上の相談に応じている
- ※学院からは常に相談に応じるべく教職員とも学生への声掛けについて必要性は感じているし、相談があった場合真摯に対応はしている。
補助的な位置づけとして試みに学院内に「投書箱」を設置したところ、匿名による学校生活に対する不満・中傷などが相次ぎ、本来の主旨と異なった結果となってしまったため、現在は撤去している。

【5-19】 学生生活

◎2. 86

- ◎経済的、精神的側面から学業継続支援体制が整い、効果的に活用している
- ◎健康管理に対する体制が整っている
- ◎学生の身体的側面の健康確保に努めている
- ◎学生の自主的な学習の場を確保し支援している

※この項目については教職員より学生の感じ方がやや低い傾向にある。

健康管理は准看護師養成所であることから日々のチェックを含め実施できているが、経済的・精神的側面からの支援は行えていない。経済的側面では学生の奨学金制度や授業料の減免など財政的な裏付けがなく実施するには困難な状況にある。

【5-21】 卒業生・社会人

☆2. 15

☆卒業生への支援を行っている

※公益社団法人日本看護協会の「2020年 病院看護実態調査」によると、2019年度の正規雇用看護職員の離職率は11.5%と、前年度に比べ0.8%増加している。

新卒採用者の離職率は8.6%（前年度比0.8%増）、既卒採用者（看護職経験者）の離職率は16.4%（前年度比1.3%減）と、看護職経験者のほうが高い傾向にあるとの結果が出ている。

卒業生に対して転職等の情報収集ができておらず、またアプローチも行っていないことから、個人的に相談に来た場合のみ相談に乗っている状態。

また資格試験の不合格者に対してのフォローについても早急に対応方法の構築をする必要がある。

VI 教育環境

2. 98

- 備品等装置面については事業（設備投資）計画に基づき充実はさせているものの、現校舎では施設面での改修は老朽化のため限界が近づいている。
- 防災・防犯については繰り返して教育・訓練を行い、啓発活動を行う必要がある。
- 特に防災については南海トラフ地震の発生を想定して発災時間を変えた安否確認・帰宅指示等ケース別の訓練も行う必要がある。

【6-22】 施設・設備等

◎2. 64

- ◎学習施設は学習しやすい環境に整っている
- ◎教室・実習室等は授業や自習がしやすいように整備されている
- ◎図書室は活用しやすく整備されている
- ◎実習室は備品が揃っている
- ◎実習目標が達成されるような実習環境が整備されている

※特に教職員が低い評価を行っており、1ポイント台の評価となった項目が多数ある。

これは一つに校舎の老朽化（築60年）によるところが大きく、学生の学習する環境についてはウイークポイントの一つとなっている。この校舎については行政により貸与されているもので、抜本的な見直しも難しい状況にあるため、

改善が一番遅れている。

【6-23】 学外実習・インターンシップ等

◎ 3. 1 8

- ◎実習における患者への倫理的配慮、患者等からの同意が得られている
- ◎実習時のインシデント・アクシデント等を分析し、学生指導に活かしている
- ◎臨地実習における安全対策が整備されている
- ◎実習施設は指導体制が整っている
- ◎実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導に当たる体制がある

※各項目とも3ポイント以上の高い評価となっているが、指導体制について教職員の評価がやや低い(2.80ポイント)ものとなっている。これは実習病院が多岐にわたってしまっており、教員の現地指導が十分行えていないのではという意識から出たものと考えられる。

【6-24】 防災・安全管理

◎ 3. 1 1

- ◎緊急時の対応については知らせている
- ◎災害など非常時の危機管理体制が整備されている
- ◎防犯、交通安全意識の向上に努めている
- ◎校舎内の安全管理・防災対策は整備している
- ◎施設設備の安心・安全が確保されている

※緊急時の対応については教職員(3.47ポイント)、学生(3.49ポイント)と双方高い評価となっている。これはグループラインを含む複数の連絡手段を確保しているためだと考えられる。一方校舎・施設設備の安全管理の評価は低い傾向にあり、【6-22】施設・設備等でも述べた校舎の老朽化に起因しているものと推測される。

防災対策については2021年度、「災害時対応マニュアル」を作成した。大規模災害が発生した場合の初動からの対応についてはこのマニュアルに基づき教職員内で情報を共有化している。

Ⅶ 学生の募集と受入

3. 1 5

- 学生募集に関しては近年ホームページのリニューアル・PVやポスターの作成などイメージアップにつながる取り組みを進めてきた。また2022年度入試からは専願入試を導入し、受験者数の減少に歯止めをかける取り組みも行った結果、3年連続して入試倍率の上昇がみられた。今後は入試倍率の目標を2.00倍と設定し、継続した取り組みを行う必要がある。

【7-25】 学生募集活動

◎ 3. 0 5

- ☆学生募集の対策を取っている
- ☆より多くの応募者を確保することに務めている
- ◎学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている

※ここ数年ホームページのリニューアルや入試ポスターの作成・入試方式の変

更を行い、学生募集活動の強化を図ってきた。その努力もあり最近低下傾向にあった入試倍率も2022年度入試は1.94倍と3年連続して上昇した。現在のホームページは学校紹介・入学希望者向けの性格が強いため、今後は在校生向けのコンテンツの挿入など、入学後の情報発信の場として活用を模索する必要がある。

【7-26】 入学選考

★3. 44

- ★入学選考等は規程等に基づいて適切に運用している
- ★入学選考にあたり公平性を記すべく合否判定体制を取っている
- ★年次別に応募者数・入学者数、合格率・辞退率等のデータを蓄積して適切に管理し、予測数値の基礎としている
- ※選考に当たっては規定に基づき公平に行っている。
入学志願者増のために受験生を対象に実施したアンケート結果などを活用し対象者へのアプローチ方法なども研究している。

【7-27】 学納金

★3. 17

- ★学費等の算定内容、決定の経過を明確にしている
- ※財政面・学生の負担感など総合的に勘案し、理事会・評議員会で適切に額の決定を行っている。

VIII 財務

3. 34

- 2021年度より「学校法人会計」を本格的に導入し、適切に処理を行えるように見直しをかけた。
- 設備投資についても年間計画に基づき執行している。ただ退学者の増加と・人件費の上昇、減価償却費の増加により厳しい財務状況が続いている。現状では抜本的な収支改善をすることは非常に厳しく、学校運営のネックとなっている。

【8-28】 財務基盤

★3. 15

- ★設備投資は過大になっていない
- ★コスト管理を適切に行っている

【8-29】 予算・収支計画

★3. 46

- ★予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行、進行管理を行っている。
- ※設備投資については事業(設備投資)計画を策定、理事会・評議員会で承認された内容に基づき適切に執行している。
- 一方で財政に占める人件費の割合は在職者の長期化により年々増加している。教職員手当の見直しや外部講師と謝礼の見直しも行っているが厳しい財政状態が続いている。

【8-30】 監査

★3. 50

- ★法に基づき適切な監査を行っている
- ★監査報告書を作成し理事会に報告している

※「寄付行為」に基づき適切に執行し、監査結果についても理事会・評議員会、監督官庁に遅滞なく報告している。

Ⅸ 法令等の順守

3. 09

●法令等の順守についてはおおむね肯定的な集計結果となっているが、個人情報の保護はもとよりハラスメントと受け取られない対応方法について研修などの実施が必要である。

【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守

◎ 3. 1 1

◎人権意識が高められるような教育・研修を行っている
◎学生の人権が尊重されるような指導を行っている
◎学生や教職員等の人権・個人情報の保護に十分な対策がなされている
◎学生や教職員等の人権・個人情報の保護について学生、教職員に対して徹底がされている
◎省エネルギーの意識が高められている
※「学生の人権が尊重された指導」に関する評価(平均:2.80)が低く、教職員の評価(平均:3.40)と隔たりが大きい結果となっている。
これは学生個々人に指導を行う際、受け手である生徒の感じ方にも起因しており、指導についてはハラスメントと受け止められないよう一定の配慮をすることが必要である。

【9-33】 個人情報保護

☆ 3. 1 3

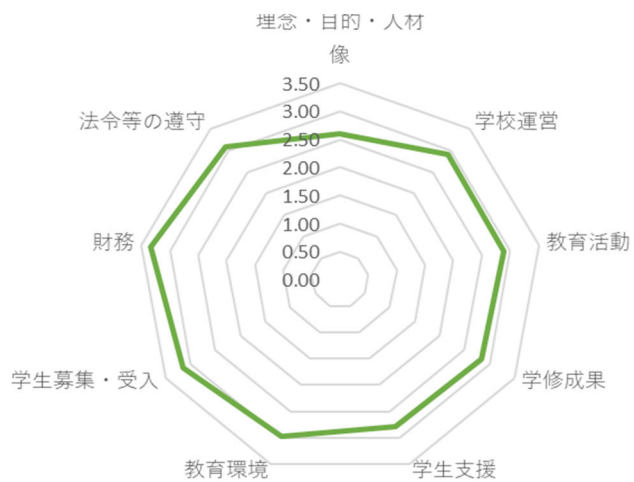
☆個人情報管理・情報のセキュリティ対策は整備されている
※「個人情報の保護に関する規則」、「個人番号及び個人情報取扱規則」に基づき適切に対応している。

【9-34】 学校評価

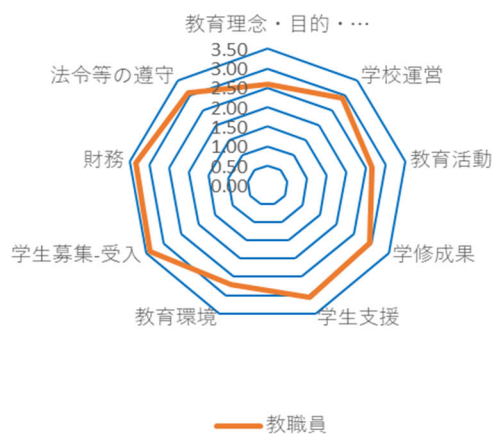
☆ 2. 4 7

☆学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている
※今回始めた自己評価を機に学生のニーズを把握し、運営に活用していく。
また、今アンケート結果からホームページで公開していく。

2021年度集計結果(全体)



2021年度集計結果-2



2021年度共通項目比較

